

「国にだまされぬ」

安保法案に反対 座り込み2日目

安全保障関連法案への思いを訴える「座り込み行動」(JR福井駅東側広場)は15日、2日目を迎えた。参加者はマイクを握って、それぞれの思いを語り交う人に訴えた。

午後3時29分 福井市の山野寿一さん(78)は「アメリカの後ろで、一緒に、肩代わりをして殺し殺される国にはいけない」。危機感の理由は戦争体験だ。70年前の福井空襲で母親を

失ったこと、父親は旧ソ連に抑留されたこと、祖父母は敗戦直後に次々と亡くなったこと。

午後3時40分 福井市の東郷憲一郎さん(69)が国連教育科学文化機関(ユネスコ)の憲章前文を読む。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」

の子と母が2人いる。「ひとりの母親として参りまし。子どもの未来に戦争がある。それを思うだけで胸いっぱいになって耐えられない」

午後3時51分 鯖江市の男性(66)は「暴力で暴力を制することはさらなる暴力を呼ぶ」。午後4時10分 近くの図書館から立ち寄った短い白髪の大工(78)は遠慮がちに「だまされない国民にな

ろう」と声を出した。その

座り込み行動2日目の参加者。JR福井駅東側の広場



後、取材にポツポツと続けた。「まずね、殺し合いをする社会をつくってはいかん。殺し合いは破滅なんやで」

「大工をしていたからあつちやこつちや行った。戦争に行った人の家で話を聞いたよ。ひどかったらしいのお、片っ端から殺して。中国の女性を木に縛りつけて暴行して。戦争になると想像できない人間になってしまう」「沖縄の人らは米軍上陸で逃げ歩いた。どれだけ怖かったんだろ。福井の空襲の時も逃げるのは怖かったけれど」

「みんな『お国のため』その一言でだまされた。戦争に反対したら国家からも世間からも相手にされへんもん。そんなふうに教育していくんや。社会全体を強引に仕組んでしまっや」

午後5時6分 僧侶の守逸巳さん(87)は、若者にとって「戦争をする」が格好良くて「平和を求めろ」のは格好悪いことになっていないかと問いかけた。「格好悪いことだけれども大事な、というところを人間に知恵がある」

た。この日の参加者は入れ代わり立ち代わり常時30人余りだった。(下地 毅)

午後6時 「戦争法案今すぐ廃案」と声をそろえ